

平成30年度 学力向上プラン

学校名 中央区立月島第三小学校

学校の教育目標

・よく考える子 ・心ゆたかな子 ・健康な子

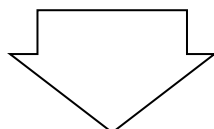
学校経営方針（確かな学力向上にかかわる内容）

・各教科等の学習が横断的・総合的に進むよう工夫するとともに、基礎的・基本的な内容の定着を図るため、年間指導計画や指導方法の改善に努め、問題解決的な学習や自然体験、交流活動などを通し、思考力・判断力・表現力等を育成する。

平成30年度「学習力サポートテスト」「東京都学力向上を図るための調査」「全国学力・学習状況調査」の結果分析や、日常の学習の様子等から見られる課題及び要因

	児童の学力の課題	主な要因
国語	書こうとする中心を明確にして、決められた文字数で文章を書くことや、与えられた情報を読み取り、適切な内容を補って文章を書くことに課題のある児童がいる。	伝えたい内容を絞ったり、要約して書いたりする力が身に付いていないことや事柄の順序や段落相互の関係に注意して文章を構成することができていないため。
算数	十進位取り記数法の理解が十分でない児童は、四則計算において積や商の大きさを正しく捉えることができていない。また題意を捉えて、立式し、答えを求めることに課題のある児童がいる。	数と数字の意味の違いを捉えていなかったり、十のかたまりごとに位が上がる仕組みをイメージできていなかったりする場合がある。問われていることを言い換えたり、図式化したりすることができない。
社会	資料から取り出した情報を関連付け、課題を読み取ったり、推論したりすることに課題がある。	それぞれの情報のもつ意味を自分の日常生活と結びつけて考えることを苦手としている。体験や経験の不足も関係している。
理科	植物の発芽・成長、昆虫の体のつくりに理解が不十分な児童がいる。特に観察・実験をする目的や条件設定の意味を理解できなかったり、結果を推論できなかったりする。	植物や昆虫にふれ合う機会が少なかったり、それらに興味・関心をもつ体験や経験も不十分であったりすることが考えられる。校内においても生き物についての意図的な働きかけや取組は十分とはいえない。
体育	体力テストの結果から特に全身持久力、投力の面での改善が必要である。器具や用具を使う運動というよりも自分の体をうまく動かしたり操作したりという面で課題がある。	急激な児童数の増加や校庭の改修工事などもあり、2年間、外遊びを十分にさせられていなかった。体育の準備運動において体力作りの要素を取り入れる工夫が不十分であった。

学力向上に向けた視点	年度末までの目標及び指標
① 学力基盤	<ul style="list-style-type: none"> ・聴く態度を重視し、体全体で傾聴する姿勢を身に付けさせる。学習用具の準備やノートのとり方など集中して学習に取り組める習慣を身に付けさせる。 ・都学力調査におけるA・B問題の正答率、都平均以上を目指す。
② 授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人が課題に向き合い、自力で取り組もうとする課題や発問を考えるとともに、ペアやグループでの学び合いが効果的になるような学習展開を設定する。 ・問題解決的な学習や体験的な学習を単元の目標に応じて意図的に設定する。 ・都学力調査におけるA・B問題の正答率、都平均以上を目指す。
③ 教員の指導力	<ul style="list-style-type: none"> ・課題や作業の手順を明確に示し、授業におけるゴールを児童がイメージできるような授業を行う。児童個々の課題を明確にするとともにそれぞれに応じた支援方法を持ち、実践し、検証することができる。 ・保護者・児童のアンケートで、問題解決的な学習、自然体験、交流学习に対する肯定的な評価が80%以上を目指す。
④ 家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での学習習慣を身に付けさせるために、家庭に対して宿題チェックや学習用具の準備をお願いするとともに、子どもと学習についての会話を増やしたり、苦手な部分を把握したりすることを重視して家庭と連携する。 ・保護者・児童のアンケートで、家庭との連携に対する肯定的な評価が80%以上を目指す。
⑤ その他	<ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人の学習の習熟状況に応じた個別指導を意図的・計画的に実施する。 ・都学力調査のA・B問題について、都平均以上の正答率を目指す。



【目標達成のための具体的な取組内容】

①学力基盤	
取組Ⅰ	児童が聴く態度を身に付けるために、教師がまずはその姿勢を示し、児童の些細なつぶやきや発言に関心をもって聴くようにする。
取組Ⅱ	児童とのやりとりが1対1にならないように一人の児童の発言を全体にも伝え、学級全体でどう思うか共有したり、意見を言ったりする場を意図的に設定し、学び合う集団作りを目指す。
取組Ⅲ	月三小スタンダードを日常的に確認し、学習の用意が整うように声をかける。

②授業改善	
取組Ⅰ	対話の進め方を指導し、対話を活用した学習活動を取り入れる。
取組Ⅱ	自分の「考えを述べる、説明する」力を付けるために各教科において書くことの日常化を図る。
取組Ⅲ	ペア活動やグループ活動を多く取り入れて、児童が進んで発表する力を身に付けさせる。

③教員の指導力	
取組Ⅰ	授業では「面白そうだな」と興味・関心をもたせる教材との出会いを大事にさせる。また「やりたいな」と思える単元の達成目標（ゴール）を提示し、見通しをもたせる。
取組Ⅱ	各教科で振り返りを大切にする。日常の授業の様子をはじめ、単元の間及び終了時にノートやミニテストなどにより児童の理解度を把握する。
取組Ⅲ	児童一人一人の発達段階や特性を十分踏まえ、適切な助言をしながら、コミュニケーションを図り、意欲を引き出す。

④家庭との連携	
取組Ⅰ	保護者会や個人面談、学校便り、学年便り、ホームページ等で学校からの協力してほしいことを繰り返し伝える。またそれによる成果や課題も示していく。
取組Ⅱ	生活科や総合的な学習の時間等で、地域や保護者と積極的に関わるような学習活動に意図的・計画的に取り組む。

⑤その他	
取組Ⅰ	・東京ベーシック・ドリルを積極的に活用し、児童一人一人の習熟の状況に応じた問題に取り組ませる。
取組Ⅱ	・夏季学習教室や放課後学習教室を実施し、児童に国語、算数を中心に各学年の内容に応じた知識・技能の確実な定着を図る。